

令和3年度本町の現状把握のための町民アンケートの意見に対する対応方針について

※町民アンケートの「御意見・御感想」について、その内容ごとに大枠でまとめ、その対応方針を記載しています。

資料 2 - 3

No.	御意見・御感想等	対応方針
「き」 築いてきた美しい里山の景観、伝統文化、生業を次世代に引き継いでいく里		
1	野外イベント、キャンプ等で多くの観光客が来てくれるのは有りがたいが、土日曜日が過ぎると必ずゴミがポイ捨てされている。車中泊も増えているので、防犯も含め心配。	車中泊などの施設の不法占有がある場合は、役場総務課までご連絡ください。必要であれば看板などの設置も検討します。
2	町内で乱開発が行われていると思われるところがある。	開発等に関するご意見やご指摘があった場合、町景観条例に基づく届出等が行われていなければ、調査を行ったうえ、必要があれば届出等を求めて参ります。
3	公園や図書館、商業施設などの開発や、イベントの開催など、人を引き付ける取組が必要ではないか。	施設の建設は予算等の関係から早急な対応は難しいところですが、人を引き付けるイベントなどは、実施できる感染対策なども含め、検討して参ります。
4	町からも積極的に情報を発信していくことが必要ではないか。	令和4年7月より、町公式LINEアカウントの運用を開始しました。こちらに登録いただくことで、町からの様々なお知らせを受け取ることが出来ます。
5	最近をよく道端でゴミが落ちてることが多く、そのままにしてある。気づいても拾う人も少ない。	道端にゴミを捨てないような啓発を行うと同時に、看板の設置等を行っていきます。
6	212号線、自動販売機が並んでいるところ、いつもゴミが散乱している。	ご指摘の場所は阿蘇市になるため、今後阿蘇市と協力して、環境保全に努めていきます。
7	全国的にも第一次産業に就く方が減っているの、南小国町が増えているという感覚はないです。保育園児が楽しそうに習っているのはいいなと思います。	今後も地域の伝統行事を園児たちに継承する活動を継続していきます。
8	少子高齢化が進み、荒廃した山林や耕作放棄地が目につくようになった。農業や林業に関わりたいたいという若者もあまり聞かない。野焼きに従事する若者も減っている。農林業に関わる人材をどうにか増やせるようにしたい。	人手不足解消方法の一つとして、現在、営農組合の法人化を進めています。営農組合が法人化に向けて話し合いを行うなかで、町としても担当職員を会議に派遣する人的支援や、国や県の機械購入に対する補助金の支援など、法人化への後押しを行っています。 また、令和5年度からの地域おこし協力隊を広く募集し、新規就農者を増やす取り組みを担うコーディネーターを育成する「新規就農コーディネーター事業」と、林業の担い手として一人親方若しくは森林組合の作業員を育成する「林業の担い手山守り育成事業」の2事業を、担い手不足解消のために新たに計画しました。 野焼きに関しては、輪地切りや輪地焼きも含め、すでに複数の牧野組合がボランティアを活用しており、今後もボランティアの活用について周知していきます。
9	新規就農者よりも農林業後継者へ補助金を出してはどうか。	農業後継者への補助金としては、令和3年度に「南小国町農業担い手育成事業補助金」を創設し、町内で農業の振興を図るための事業を行う団体及び個人を対象に幅広く支援を行っております。 また、林業後継者に対しては、令和元年度に創設した「南小国町林業機械等導入事業補助金」を今年度改正し、補助率・補助上限額ともに引き上げております。
10	町の特産物が何かわからないので、何か特化した特産物があればいいと思う。	きのご菌床培養等施設(通称:きのごセンター)を平成7年に設置し、「舞茸」の生産を始めました。そこから20数年経過し、機材や施設が老朽化したため、令和3年度に空調設備や機材を新調しました。これにより、生産量が従前の約1.5倍になりました。 今後は新たに生産を始めた「生きくらげ」や商品開発された舞茸入り麺など、特産品として県内外へ販路の拡大を進めてまいります。物産館きよらカササでも販売しておりますので、是非ご利用ください。
11	中原川は今は河川改修により川幅が広くなり、洪水の危険もなくなり、景観も良くなっているけど、川岸の草刈りが出来てない所があり、景観を悪くしている所があります。	川岸の草刈りは、現状では主として近隣住民の方々の協力により行われておりますが、川岸の草木が繁茂し、道路の通行や河川の管理上特に支障がある場合などは、各管理者が対応できることもありますので、ご相談いただければと思います。 一方で、住民の方々の高齢化が進み、地域の協同作業の継続にも問題が生じているため、既に実施されているボランティア団体の継続や団体数の増についても検討していきます。
12	コロナの流行のため、お祭りや行事がなくなったり、縮小されたりして伝承することが難しくなっている。	全国的に通常の開催が困難になる中、各団体とも工夫しながら活動を継続しています。課題について、各団体と協議・共有しつつ、国県または民間団体からの補助等を活用し、継承に努めます。

No.	御意見・御感想等	対応方針
「よ」 寄り添い支え合い、人と人のつながりを大切にし、一人一人が誇りを持ち、多様な生き方を尊重しあえる里		
13	農協跡地に総合運動公園や、コミュニケーションがとれる図書館、スポーツジムやカフェ等の施設が欲しい。	農協跡地の活用については、前回のアンケートで町民のニーズは大体把握出来ました。再度、聴衆内容を検討してアンケートを行います。又、検討委員会メンバーを増員して、外部有識者などを招聘し客観的な立場からの確かなアドバイスをもらいさらに情報を収集します。今後は町民に会議内容や進捗を報告していきます。JA跡地開発は、多額の財源が必要となることから、公共施設の今後の必要性なども勘案しながらJA跡地の開発が将来の負の遺産にならないよう時間をかけて進めていきます。
14	地区により、組合の参加が強制されていて高い費用を払い続けなければならない。その、払った高い費用は還元されることなく何に使われているかもわからない。	町では、共助の精神に基づく自主防災活動を活発化するため、町民の皆さんが自治会や組に加入されることを推進しています。ただし、加入は強制されるものではありませんので、会費の額や活動内容にご納得のうえ、ご加入いただきますようお願いいたします。各団体の会費の額やその使い方については、町では把握しておりませんが、会費を集める以上は多くの加入者が納得する運営がなされるべきと考えますので、疑問がある場合には各団体の会計報告等の際にご確認ください。
15	若い世代が住むアパートや借家などが少ない。	空き家対策や民間の賃貸住宅建設に対する補助を行っており、今後も住居を増やす取組みを推進して参ります。
16	イベント等が少なくなっており、ますます里帰りする機会がなくなっている。	コロナ禍で人と人のつながりが希薄となってきているため、イベントなど、コミュニティの回復を図れる取組を検討して参ります。
17	高齢者へのタクシー券の配布は、皆さんとても助かっていると思う。	評価いただき、ありがとうございます。今後も、より利便性が高い取組となるよう、検討して参ります。
18	暮らし応援券やプレミアム商品券など、町独自の経済対策はありがたい。	評価いただき、ありがとうございます。現状では、燃料価格の上昇に加え、食品の値上げなどもあり、厳しい状況であるため、今後も社会情勢を注視しながら、必要であれば対策を検討して参ります。
19	町民みんなできれいにして、魅力的な景観にすれば、町外からも人が来てくれるのではないかと。	南小国町は、「日本で最も美しい村」連合に加盟し、日本の農山漁村の景観・文化を守る取組を進めていますが、町独自の補助金である「日本で最も美しい村」づくり補助金なども活用しながら、官民一体となり、さらに魅力的な町となるよう取り組んで参ります。
20	毎年人口が減少している。町の存続も含めて、真剣に議論すべき。	人口減少は、今後の町政において非常に重要な課題と認識しています。町では、人口減少のうち、社会減については、若い世代への支援や、空き家を活用した移住定住施策の推進などの取組を推進して参ります。また、自然減については、健康促進の取組や、子育て世代の移住促進などの取組を推進して参ります。今後も社会情勢等を注視し、事業や文化の承継なども含め、必要となる取組を検討して参ります。
21	様々なイベントが開かれていて、そこに行くと暖かい雰囲気があり、楽しいです。また、私のおばあちゃんも、りんどう荘に通わせていただいでいて、今まで家に一人でしたので、不安な部分もありましたが、何より楽しそうなので、良かったです。	いつまでも住み慣れた自宅(地域)で安心して生活を続けていけるよう、町・社協(りんどう荘)と連携して支援していきます。相談機関である町地域包括支援センターもご利用ください。
22	医療費を負担してくれたりありがたいことが多いです。	少しでも生活の支援に役立てるよう、今後も事業を継続していきます。
23	コロナウイルスの影響もある為仕方ないが、ある程度お年寄りが子供や若者と交流できる機会が増えるといいなと思います。	現在そのような機会がないため、感染対策を実施しながら少しずつ交流の機会をつくっていきます。eスポーツやレクリエーションなど、どのようなことができるか関係団体と計画していきます。
24	福祉は充実していると思います。高齢者が多いので集会所でお茶を飲んで、というような会合があるといいなと思ったり、葉っぱビジネスのような、高齢な方でも働ける場所とデイサービスをひも付けて障害(認知症にしろ、色々含めて)があっても居場所(家以外)があって、という場があるといいのになと思うことがあります。	町としても高齢者が定期的に集まる「通いの場」づくりを推進しています。お近くの集会所等での立ち上げ支援も行っておりますので、福祉課までご相談ください。その他にも社会福祉協議会が実施するサロン活動もありますのでご相談ください。

No.	御意見・御感想等	対応方針
25	高齢者や障害者に対しては、すごくありがたいのですが、これから町を担ってゆく子育て世代へのサポート(ファミリーサポートのような)があると良いのでしょうか。	ファミリーサポートは児童を預かっていただく会員の養成などの課題がありますが、多様化するニーズに対応するため、サービスの提供方法などの見直し、検討を進めていきます。
26	コロナ禍において人と人との触れ合いの場が制限されるのは仕方ない状況ですが、行政からは様々な補助を頂き、かなりの生活の負担が軽減されていると思います。南小国町に住んでいて良かった、という声を沢山聞きます。	有難うございます。今後も今よりもっと「南小国町に住んでいて良かった」と言われるよう、きめ細かな支援策を考えていきたいと思っています。
27	やはりコロナ禍の為、交流の時と場が奪われた。朝夕にウォーキングをしていると、出会う方々が気持ちの良い挨拶を交わしてくださる事からも、町民の殆どは思いやり励まし合い志を高く持っておられるのだと思う。	交流の場を奪ったコロナウイルスがいつ収束するか分かりませんが、町民が志高く南小国町に住み続けられるよう、今後も支援させていただきたいと考えています。
28	コロナの関係もあって、今までの形が変化している為、新しい形を作り出す必要性を感じます。	今後も色々な出来事があり、医療や生活に変化が起きることはあり得ます。それも含めて小国郷において、医療・介護・福祉の多職種連携の小国郷医療福祉あんしんネットワークを組織し、情報共有や在宅医療の充実に取り組んでいます。
29	高橋町長・町職員・良い町づくりに頑張っていると思います。これからも南小国町の為、頑張ってください。期待しています。	町民の方に応援していただくことが今後一番の力となります。有難うございます。
30	田舎の方が一人暮らしが気になる。	独り暮らし高齢者の万が一に備え、緊急通報システムの設置事業を行っています。その他民生委員や地域包括支援センター、社会福祉協議会の訪問活動を通じた見守り支援を行っています。心配なことがありましたら、町や社会福祉協議会までご相談ください。
31	若年層が住むアパートや借家が少ない。また、居住施設が少なく、移住者希望者がいても断念するか、他市町村から通っている。民間の賃貸住宅が高い。	町が提供している住宅は、住宅に困窮している方に低廉な家賃で供給する町営住宅、中堅勤労者の居住に要するための特定公共賃貸住宅、若者の人口増加と定住を促進し地域振興を図ることを目的とする定住促進住宅、そのほかにも町営単独住宅(2事業)が展開されています。その中には、ご指摘のとおり、設備が古く、若年層のニーズにあてていない住宅も見られるかと思いますが、建替や維持管理に多大な費用を要するため、対応が難しい状況です。そこで、令和元年度より「南小国町民間賃貸住宅確保プロジェクト補助金」を創設し、民間の力を利用した住宅の確保を行うこととしました。しかしながら、需要に対する供給は以前として不足している状況にあり、町内にある空家の利用についても考えていく必要があると考えます。早急な対応が必要とは考えますが、財源等を考慮し、前向きに進めていきたいと思っています。
32	コロナ禍でイベントや催し事が実施されるのが困難な状況ではあるが、南小国町体育祭(大字対抗)等企画してほしい。	ご意見を参考に考えていきたいと思っています。
33	高齢者のグラウンドゴルフは交流の場で、認知症予防、健康維持に効果があると思いますので、山村広場の使用料を無料にし、参加者を募ったら良いと思う。	近年、町グラウンドゴルフ愛好会による新規勧誘や大会の開催等により、活動が活発化しています。同会は、町スポーツ協会加入団体であり、補助金から会場使用料を支出しているため、今後も同様に対応いたします。
34	かつての星和小学校が何も使われず、そのまま聞きました。校舎も古くはないようです。林間学校とか、子ども中心の研修とのキャンプとか、公私を問わず募集しては、町は場所を提供するだけにして。	現在は地域の公民館として活用しています。活用について、ご意見を参考に考えていきたいと思っています。
「ら」 ライフラインを充実させ、地域全体で協力し、だれもが笑顔で安心して過ごせる里		
35	避難場所の老朽化等があり、自然災害等が起きた時が不安である。	災害時には、町が運営する町有施設を利用した避難所と、自治会等が運営する集会所等を利用した避難所があり、町民の皆さんはどちらでも利用していただくことができます。町が運営する避難所については、日常利用している施設ですので、適宜修繕等を行っています。自治会等が運営する避難所につきましては、ご意見のとおり老朽化が進んだ建物もあるかと思われます。町では、集会所の老朽化等に対応するため、自治会等が集会所の新築や改修を行う場合の補助金制度を設けておりますので、ぜひご活用いただくことをご検討ください。

No.	御意見・御感想等	対応方針
36	各地域の消防団に防災の知識が備わっていないと思います。 火事だけでなく地震、大雨による川の氾濫や土砂災害等災害・防災の講習を受けるなどし専門的な知識の向上が必要であると思います。 各集落ごとに防災イベントを行う必要があると思います。	ご意見のとおり、地元に着する消防団員の防災知識と技術の向上は、町民の皆様の生命を守るため、大変重要なものです。 近年のコロナ禍により、集合による訓練等が実施できておりませんでした。令和4年度からは新入団員訓練を再開し、消防団の情報伝達訓練なども実施しています。 また、令和4年度から消防防災の専門知識を持った職員を配置し、自治会の自主防災活動や消防団活動をサポートできる体制を作っておりますので、防災訓練などの際にはぜひ町総務課にご連絡ください。
37	防災無線のみで、町をあげ避難訓練等は無いように思えます。	コロナ禍により、近年町全体の防災訓練を実施できておりませんでした。令和4年度から再開する予定としております。 今後も町内の防災意識向上のための取組を継続してまいります。
38	今後50年、100年と先を見据えた時に、今の集落の在り方の維持は困難。反対意見も多いと思うが、ある程度の人口ボリュームを保てるように集落の合併、集中を行い、インフラ整備を進めていかなければならないと考える。	高齢化や後継者不足により、集落の運営が難しくなっているという話をたまに聞くことがありますが、集落の合併や移転は、移転後の家屋の廃墟化、農地・山林の荒廃、害獣被害等があり町内の自然環境が壊滅する可能性もあります。インフラの更新・整備や集落移転事業など今後、慎重に検討して参ります。
39	河川整備など、生活環境の整備は進んでいると思うが、豪雨の脅威が増すなか、避難場所が川の近くであるなど、安心できないと感じる。また、避難所に避難したとしても、全員は入れないのではないか。 避難させる場所の確保が、自治体の最重要課題の一つではないかと思う。	避難情報が発令された場合に町民の皆様にとっていただきたい避難行動とは、避難所に避難することのみを指すものでなく、危険な場所から離れ、命を守るための行動をとること全般を指します。 町が運営する避難所については、すべて土砂災害や浸水の危険区域外となっておりますが、自治会等が運営する避難所については、災害の種類や状況によっては危険と思われる場所にあるものもありますので、状況に応じて、最も命を守る可能性が高い避難行動をとっていただきますようお願いいたします。 もしも避難所が満員となったときには、町職員が別の避難所をご案内いたします。
40	常識と思うが、消防車庫前に駐車は行政から注意すべきだ。	町が消防車両の妨げになるような駐車を確認したときは、都度移動をお願いしております。 町民の皆さんがそのような状況をお見かけになった場合には、町総務課にご連絡いただきますようお願いいたします。
41	自治会などでの集会時の呼びかけ、作成等ができていない地区とできていない地区との差があるのではないか。	毎年、年度当初に、自治会長・組長会議を実施し、自治組織についてや防災訓練・町の補助金等について説明会を実施していますが、コロナ禍の影響で令和2年、3年と開催ができておりませんでした。令和4年度は会議を行いました。会議内容を検討し、さらに充実させていきたいと思っております。
42	近年の線状降水帯の多発している事を考えると、いつ南小国で発生してもおかしくないと思います。大きな災害に対処できるか不安に思います。	町全体の防災訓練の実施や、自治会の自主防災活動への支援を継続して行い、町全体の防災力向上に努めてまいります。 町民の皆様におかれましては、気象情報や町が発令する避難情報にご注意いただき、いつでも適切な避難行動がとれるよう、日頃からの備えをお願いいたします。
43	ハザードマップを大きくして配布すべきである。	令和6年度に総合防災マップを更新する予定としております。 その際、ご意見を参考に、地域の防災訓練等に活用できる地区単位の大きな地図を作成し、配布したいと考えております。
44	車がない子供やお年寄り、生活範囲が制限されています。交通手段を増やすことは出来ないか。	令和3年度からコミュニティバスである「にじバス」の運行を始めており、また、高齢者を対象とした「タクシー券」を交付や「小国郷ライナー」の運行など、交通弱者対策の取組を実施しています。 今後も、より良い交通手段を検討し、取組を推進して参ります。
45	タクシー券の配布は対象者に一律ではなく、病院や店舗などから遠い所に住んでいる高齢者は配布数を追加するなどしても良いのではないか。	タクシー券の利用においては、乗り合わせでご利用されるなど、工夫いただきながら活用いただいておりますが、より良い制度となるよう、今後も検討して参ります。
46	ドローンの講習会を行って欲しい。	実施の可能性について、検討して参ります。
47	Aマートがなくなり、近くで食料品を購入できず、高齢者の生活が不便になった。スーパーマーケットなど、普段使いできる店が欲しい。	「にじバス」の駐車場でもある、物産館「きよらかアサ」や、移動販売車「きよら号」をより活用いただけるように、品ぞろえなどのより一層の充実を働きかけて参ります。

No.	御意見・御感想等	対応方針
48	QRコードを読み取らせる取組があるが、スマートフォンを持っていない人もいるため、浸透しにくいのではないかと。	スマホの所持率は60歳代で約80%、70歳代でも約60%と決して低くはないため、QRコード読取の意義は一定程度あると認識しています。また、QRコードはアクセス手段の一つですので、それ以外の方法でも情報取得できるように考慮しています。
49	ラインでの情報提供がなされるようになり、若い方へは情報が入りやすくなったが、一人暮らしの高齢者への周知もしっかり行って欲しい。	一人暮らしの高齢者の方については、ケーブルテレビ放送や町内放送といった手段での情報発信を行っています。
50	ネットの回線状況が悪い。	利用しているWifiとの相性や設定、利用状況など個別の問題の可能性もありますので、回線状況が回復しない場合には、一度(株)光ネットワークへご相談ください。
51	きよらニュースなど、携帯などでもみれるようになれば良い。	今後検討してまいりたいと思います。
52	強みのある病院がない。いつも担当課のある病院がほしい。あれこれ曜日が決まったり休みなので、遠くへ行くのが大変。	今後の地域医療構想の課題としていきます。
53	AED講習会をしてほしい。また、コロナウイルス感染防止でアクリル板を設置しているが換気の方が効果があると思う。自分はこの3年間ほとんどマスクをしていません。	新型コロナウイルス感染症の感染動向を見ながら、講習会の実施を検討していきます。感染予防対策について、実体験も含めた啓発に努めます。
54	町への税金等の支払いがコンビニでできるようになると便利で助かる。	令和5年度からコンビニやスマホで税金などのお支払いができるよう準備を進めています。
55	道路及び宅地付近の山林管理が全く行われず、山林の持ち主が放置してあり生命・生活を脅かされている。災害時に人命が亡くなる恐れがある。	道路沿線に枝が大きく張り出し道路に覆いかぶさっている所や、家屋に隣接する山林の大径化により、台風などの自然災害時における危険性があると認識しています。そこで、令和3年度に「南小国町支障木伐採事業補助金」を創設しました。これは、倒木の際に住宅に被害を与える恐れのある支障木の伐採にあたり、クレーン等の特殊な重機又は特殊な技術を持つ作業員を用いて行う必要がある場合に、対象経費の2分の1を補助するものです。当初、補助金の上限額を10万円としていましたが、実情を考慮し今年7月に上限額を30万円に引き上げています。また、山林の所有者それぞれにアンケート調査を行い、今後の山林をどのように管理されていくかを令和元年度から段階的に調査を行っています。その結果に基づき、所有者自身での管理が難しい、且つ災害の危険性を含む山林等に関しては、ある程度の集約化を図り、森林環境譲与税などを活用しながら間伐等の手入れを行えるよう準備を進めています。
56	横断歩道の信号機手前の柱などを作ったことにより、危なかったのが、あまり危なくなかったのがうれしい。	本町では南小国町通学路安全推進協議会が中心となり、通学路の安全確保に向けた対策等を行っています。また、通学路以外においても必要な交通安全施設の新設や修繕なども行っています。ですが、通常の道路パトロールでは気付かない危険性がある場所もあるかと思えますので、気付かれた点などあれば、今後とも情報を頂ければと思います。
57	水害の対応が全くされていない。	令和2年7月豪雨災害からの復旧におきましては町民の皆様方には多くのご協力を頂き深く感謝申し上げます。災害復旧工事の進捗率は、令和4年5月31日現在で約51%となっており、令和4年度から5年度において完成する見込みです。本町としても、また、南小国町建設業協会としても一日でも早い復旧を目指しておりますのでご理解とご協力をお願いします。ですが、復旧工事には採択基準もあり、全ての被害について対応ができるものではありませんので、すでに担当課にお話を頂いているのであれば、対応できないものである可能性がございます。必要であれば、担当課に再度ご連絡を頂ければと思います。

No.	御意見・御感想等	対応方針
58	令和4年3月に発生した飲料水水質汚濁に対する今後の対応はどうか。また、将来的な維持管理はどう考えているのか。	令和4年3月18日～23日に発生した南小国町簡易水道事業の赤馬場地区・満願寺地区の一部における飲料水としての使用停止につきましては、ご利用の皆様方に多くのご迷惑をおかけしたことに深くお詫びを申し上げます。 今回の水質汚濁の原因や今後の対応等につきましては、令和4年6月議会における答弁や南小国町広報誌7月号に掲載しており、また、今後は不定期ではありますが広報誌に随時掲載していくこととしています。 水源の確保や代替機能、配水池や配水管等の水量・水圧の不足や老朽化等に対する対策、将来を含めた人口の増減に対する必要な供給体制、将来的な継続のための維持管理などについて、令和5年度末までに基本計画を作成し、その後、事業の整備に取り組んでいきたいと考えています。一方で、水道料金についても検討を重ねて行き、必要な財源確保も行っていきたいと考えています。
59	道路が狭く不便。せめて離合箇所を増やしてほしい。また、大観峰トンネルの実現を。一方で維持管理に不安を感じる。	道路などのインフラ整備については、南小国町総合計画や各道路の点検結果、整備の緊急性、将来的な維持管理費などを考慮して優先順位を決定し、整備を行っていきます。限られた財源のなかで多大な費用が必要であるため、ご理解とご協力をお願いいたします。 大観峰トンネルについては、まずはその必要性等を町内外問わず広く認知いただくことが必要であり、それらの対応を行って参ります。
60	南小国町全域に下水道を通してほしいです。	本町では、一般的に下水道と言われる区域を細分化し、公共下水道区域、農業集落排水事業区域を定め、それ以外の区域は合併処理浄化槽による整備を行うとしています。これは、現状で設置されている合併浄化槽などを考慮しながら、それぞれの事業で整備した際の費用を算出し、判断しているものです。 一方で、公共下水道区域は加入率が70%台であることから、加入率向上に取り組んで参ります。
「の」のびのびと学べる環境の中ですべての人が夢に向かって挑戦できる里		
61	特定の人の意見だけを聞くのではなく、町長参加で、もっとみんなが話をできる場を作ってもらいたい(例、各組で月1回位語りあえる会を作る)	以前は、校区ごとに町政座談会を行って町民の皆様のご意見を拝聴させていただいておりました。近年は、災害やコロナ禍などで実施を見合わせております。コロナの状況を踏まえて開催時期などを検討して参ります。
62	若い人や主婦などが短時間で仕事ができるよう、しごとコンビニの取組は、今後も継続してほしい。	町内事業者の人材不足に対応するため、業務を切り分けるとともに、切り分けた短時間業務を町民等とマッチングする、業務委託型短時間ワークシェアリング事業「しごとコンビニ®」を導入し、株式会社SMO南小国と連携して実施しています。
63	南小国町は住民のチャレンジ精神を応援し、受け入れる土壌があると思う。これからもその空気を大切にしたい。	評価いただき、ありがとうございます。 南小国町では、町独自の補助金である「夢チャレンジ補助金」の活用推進や、(株)SMO南小国が起業支援を行うなど、種火を育て、「挑戦と行動」を生み出す町となるよう取り組んでいます。 今後も、新しい挑戦が出来る町となるよう、取組を推進して参ります。
64	働く場所が少ないため、町外へ行ってしまいう子どもたちがほとんどである。	町内で働くという選択肢を残すためにも、実際に町内にはどのような「働く場所」があるのかなどの情報を集め、発信する取組を検討して参ります。
65	町や県出身の有名人などに会える機会があれば良い。	町内、町外出身者で、子ども達や町民の皆様が夢を持てるような人がいないか、調査、検討して参ります。
66	「広報きよら」や「みなみチャンネル」を見るようになって、他の方の考えや子どもたちの頑張りがわかるようになった。	ありがとうございます。引き続きよりよい広報、番組作りに邁進してまいりたいと思います。
67	地域の方々とのふれあいの場(運動会など)があるなど、皆で子育てをしている姿が見られる。	少子高齢化で運動会等の見直しなども考えられていますが、高齢者と保育園児のふれあい等、今後形を変えてでも持続できるよう考えていきたいと思ひます。
68	放課後や長期休みの子供の居場所・子ども食堂等の事が気になっている。	児童の放課後の居場所として、放課後子ども教室を週に4日、市原小と中原小で実施しています。夏休みなどの長期休暇の居場所としては社会福祉協議会が実施する子どもデイサービスがあります。子ども食堂については実施団体がおらず本町では実施していませんが、今後のニーズに対応できるよう関係団体とも協議をしていきます。
69	どこも高齢化して活気がない。	少子高齢化対策は町にとって大きな課題です。安心して子育てができ、子どもたちと高齢者が交流しながら健康づくりに取り組み、若者がふるさとに戻りたくなる町を目指し、関係機関と色んな事に取り組んでいきたいと思ひます。

No.	御意見・御感想等	対応方針
70	もっとしっかり木育をして欲しい。小国杉は何にも活用されていない。	本年度は起業型地域おこし協力隊1名、集落支援員1名がそれぞれ小国杉を活用した活動を行っています。3月から5月にかけて熊本市中心部をメインに開催された全国都市緑化くまもとフェア「くまもと花とみどりの博覧会」では、新市街アーケードに木製の滑り台・三面卓球台・エアホッケーを展示しました。多くの来場者の方に見て触って遊んでいただき、小国杉の魅力を実感していただきました。町内での木育事業については、保育園3園を対象にハロウィン飾りづくりを実施しました。また、今年度から新たに小学校3校を対象に木育事業を予定しています。
71	適齢期の男女の婚活に取り組んでもらいたい。	コロナ禍以前は、婚活イベントなどを催していましたが、なかなか人が集まらず、運営に苦慮していました。そこで、令和元年度に「南小国町異業種交流会」と題して、婚活を前面に出さない交流イベントを開催したところ、南小国町内の各事業所から20数名参加していただきました。新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、このような交流会の開催は難しいのが現状ですが、今後は、感染状況を考慮したうえで、このような交流会の開催を検討していきます。
72	南小国町の宝は自然であると思う。しかし、子供たちは故郷の良さを体験しているだろうか。子供が川や野原で触れ合っている姿は見られない。むしろ都会の子供がキャンプ場などで遊んでいる姿を見かけます。	小学校では地域学習や里山自然体験活動、出前授業など、中学校では民泊農業体験やまちインターンなど、また、文化面ではアウトリーチ事業(本物の芸術に触れる)などを行い、子供たちが南小国町の人・もの・ことや、各分野の専門家と関わっていくことで、南小国を担う人材となるよう、育成に取り組んでいます。今後も取組を継続しつつ、更に学べる環境作りを進めていきたいと思います。
73	経済面で、高校や大学進学への援助を今よりもしてほしい。	ご意見を参考に考えていきたいと思います。
74	子どもたち1人1人に目が届いていると思う。	少子高齢化が進み、子どもが少なくなっていますが、児童一人一人への手厚い教育を行うことができるという強みととらえて、少人数での指導を徹底するようにしています。
75	自らのやりたい事や個々の個性を大事にするのであれば、現在の様に自然豊かな環境でのびのびと出来た方が良いと思うが、将来必要となる人間関係などを学ぶためにも、小学校は統合した方がいいと思う。	南小国町の教育の魅力は、「誰一人取り残さない教育」「最大限に学びを保障する教育」です。子どもが少なくなっていますが、それにより小学校の合併を進めるのではなく、逆に児童一人一人への手厚い教育を推進する機会として、少人数での指導を徹底するようにしています。
「さ」再生可能エネルギーを地域資源から生み出し、有効活用し、未来につながる豊かな暮らしを実現できる里		
76	直営林の整備が必要ではないか。	直営林については、南小国町森林整備計画を踏まえながら、搬出がよく木材生産性の高い直営林については、引き続き管理整備を行い、急傾斜地や搬出が困難な場所については、伐採後に広葉樹を植栽し、水源涵養や山地災害防止林として管理をおこなっていきます。
77	水が多い地域なので、小水力発電を検討してはどうか。	町内における再生可能エネルギー促進のため、令和3年度から令和4年度にかけて、町内の事業者等を対象とした小水力発電に係る実証事業を実施しています。実証結果については、町HPなどで公表する予定です。
78	再生可能エネルギーの取組みは、更に推進して欲しい。 地熱の活用も検討して欲しい。	再生可能エネルギーの推進は、令和2年度に策定した「南小国町再生可能エネルギー導入ロードマップ」に沿って、令和3年度から太陽光発電設備等の設置補助を行っており、今後も取組を推進して参ります。地熱の活用についても検討を行ったところですが、温泉等の周辺環境への影響も懸念されるなど、現状では導入は困難なものと認識しています。
79	ペレットストーブ等の購入は非常に高額。	町では木質ペレットストーブ又は薪ストーブの購入者に対し、平成27年度から補助金を交付しています。補助率3分の1、補助上限額を15万円としており、延べ木質ペレットストーブ29件、405万8000円、薪ストーブ14件、174万9000円の補助金を支出しています。世界的な原油価格の高騰により、木質燃料が見直されていますが、一方で輸入品の値上がりや資材の高騰による導入コストが増えており、令和3年度は導入件数が1件に留まっています。今後は、補助率や補助上限額の見直しも検討し、更なる導入の推進を図っていきます。
「と」共に連携し、世界とつながり、世界に誇れる幸福な暮らしができる里		
80	役場職員が能力がない。	業務に必要な知識や公務員としての知識養成の為、研修を受けさせると共に業務に必要な資格取得等も推進していきます。

No.	御意見・御感想等	対応方針
81	町内で働いている外国人にとっては、買い物などが出来るお店が近くにないため、車の免許を持っていないと生活が難しい。	どのような対策が取れるのか、検討を行って参ります。
82	株式会社SMO南小国などにより、地域の資源や魅力、最新の情報などが発信されているように思う。	(株)SMO南小国は、町の第三セクターとなりますが、きよらカアサの運営だけではなく、ふるさと納税事業や情報発信事業、未来づくり事業なども行っており、オウンドメディアである「SMOMO」に加えてFacebookやInstagram等のSNSからの情報発信、ふるさと納税を通じての地域産品・サービスの発信、起業や事業者支援、「地域おこし協力隊」の支援なども行うなど、町の重要なパートナーとなっています。今後もSMO南小国と連携し、情報を発信して参ります。
83	株式会社SMO南小国がどのような仕事をしているのか分からないため、重要性がわからない。	(株)SMO南小国では、町の第三セクターとして、地域商社事業、情報発信事業、未来づくり事業など多様な取組を行っており、積極的な情報発信も行っていますが、町外向けが強い傾向があります。実際には、移動販売や学校給食の配送、ワクチン接種のコールセンター業務など、町内向けの業務も行っているため、今後は町内に向けても積極的な情報発信を行うよう、依頼して参ります。
84	住宅不足の改善のため、大学や専門学校と連携し、実習として町の空き家をリフォームしてもらってはどうか。	今年度、町では新たな取組として、町が空き家を借り上げてリフォームし、移住者に使用いただくことが出来ないか、検討を進めています。大学等との連携については、今後検討して参ります。
85	町外者向けの施策が多いように感じる。町民が転出しては本末転倒であるため、まずは町民のことを考えた事業に取り組むべきではないか。	町民の皆様の生活に資するものとして、「暮らし応援券」や「倍返し飲食券」、「3倍返し宿泊券」など発行し、高齢者への「タクシー券」の交付や「にじバス」の運行など、交通対策を行っています。そのほか、高校生以下への医療費の助成や、高齢者の健康づくりの取組なども推進しています。今後も、町民がより住みやすい町となるよう、検討し、取組を進めて参ります。
86	共有ビジョンが町民に伝わっていないため、もっと印象付けて欲しい。	「共有ビジョン」は、2050年の本町のありたい姿を可視化するため、多くの町民の方々から意見をいただき、策定しました。本町の取組を進めていく上での「ぶれない芯」となるものであるため、より町民の皆様を知っていただくよう、対策を検討して参ります。
87	移住者だが、南小国町が大好きで、感謝しかない。他にも移住したいと考えている方は多いが、住宅がないと言われている。	評価いただき、ありがとうございます。移住者や若者世代の住居の確保に向け、空き家を確保するなど、取組を進めて参ります。
88	住みやすい町だと思うが、若い芽をもっと活かして欲しい。	子どもたちに対しては、学校での「里山自然体験活動」や、学習支援の「きよら塾」の開催など、将来の糧となる取組を行っています。また、町民の新規事業の夢を支援する「夢チャレンジ補助金」や、町内での起業を希望される方を支援する「キックスタートキャンプ」など、挑戦できる環境を整えています。
89	私は地元が大好きです。移住者が増えているのも、それだけこの町が住みやすいからだと思う。	評価いただき、ありがとうございます。町民の方はもとより、町外の方からも選ばれる町となるよう、より一層取組を進めて参ります。
90	他の自治体の取組みも多めに参考にしたい。	先進地の情報は積極的に収集し、必要であれば視察も行い、より生活したい町となるよう取り組んで参ります。
91	町のホームページや広報誌をもっと充実させて欲しい。	よりよい情報発信ができるよう、内容について検討していきたいと思えます。
92	子どもたちが明るい未来を描けるように、通信インフラなど充実させて欲しい。	現在町では、(株)光ネットワークが提供する光通信によるインターネット環境が利用できるようになっております。また教育委員会にて、GIGAスクール構想によるタブレット端末等の整備も行っております。
93	私の知人ですが、こちらへの移住をすすめても、利便性の悪さや婦人科等が無く、将来の事を考えると、不安しかないとの事でした。	今後の地域医療構想の課題としていきます。
94	暮らしに興味を持つ従業員は増えつつある。	今後も、暮らしの窓口としての必要な情報収集と、丁寧な対応を心がけていきます。

No.	御意見・御感想等	対応方針
95	<p>年ですが何か町の役に「たちたい」と思っています。何か協力出来る事はありませんか？もちろんボランティアで・・・私は卵アートを作ります。何か役に立たないかなあと何時も思っています。</p>	<p>社会福祉協議会では様々な分野で活動していただけるボランティアさんを随時募集しています。ぜひ得意な技術を活かしていただきたいと思います。ご連絡をお待ちしております。</p>
96	<p>農業に力が入っていないため、魅力を感じない。商工会関係はすぐ補助金が出ていいかもしれないが、農業・畜産業はないから注目されていなくなると思う。</p>	<p>農業を取り巻く環境は、ロシアのウクライナ侵攻による海外穀物価格や原油価格の高騰、その他円安などにより、飼料・燃料・肥料等の価格が軒並み高騰しています。</p> <p>南小国町では、そのような状況を考慮し、令和4年6月の補正予算において、「飼料・燃料費高騰対策補助金」を計上しました。これは令和3年にて使用した飼料代、燃料代、肥料代の1割を補助し、高騰した燃料代等を補填できるように創設したもので、令和4年9月より補助金の受付を開始しています。</p> <p>また、令和4年度発行の暮らし応援券から、使用店舗に農協の購買も追加していますので、資材の購入などに幅広く利用できるようになりました。</p>